

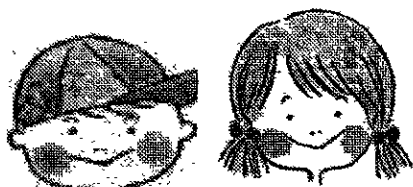
緊急

核融合科学研究所の 多治見市、重水素実験を認める方向で調整中

市長に、実験を認める協定書の調印はしちやあかんと、言おう！



(Tel 22-1111) 秘書課・企画課



人家のないところならともかく
住宅密集地(一番近くで 800 メートル)のすぐ
そばで、放射性物質のトリチウムや中性子
が発生する重水素実験はダメッ！

節電の時代、毎年 4~5 億円の電気料を
使い続けていても 1 円の電気も生み出さ
ない核融合研究は凍結すべき。

「核融合の実現は無理。仮に発電に成功しても、凄まじい
中性子で装置も建屋も短期で放射化、使い物にならなく
なる」と、多くの専門家の指摘有り！
核融合に未来はなく、税金の壮大な無駄遣いです

- 敷地境界値は原発と同じ年間 50
マイクロシーベルト。(原発は法律に
より周辺に集落は無し)
- 除去装置を付けるとは言え、効果
は疑問。トリチウムは水素の同位
体、体内に取り込まれやすく、内部
被ばくの恐れがあります。

これまで、問題にされてこなかった「内部被ばく」
特にトリチウムは 細胞内に取り込まれやすい

■原子力発電所の敷地境界値は年間 50 マイクロシーベルトですが、右のような調査結果が出た原因は、「乳児の内部被ばく」が考えられます。たとえ、放射線が弱くても体内に放射性物質が入れば細胞分裂の盛んな乳児には致命的な影響を与えるという指摘があります。トリチウムは、非常に低いエネルギーのベータ線を放出するので軽視されてきましたが、内部被ばくについては要注意の放射性物質です。

核融合とトリチウム……

将来のエネルギー源として計画が進められている核融合（炉）にかかわる環境・生物影響、とくにトリチウムの人体への影響が注目される。トリチウムはトリチウム水（HTO）の形で環境に放出され人体にはきわめて吸収されやすい。

また、有機結合型トリチウム（OBT）はトリチウムとは異なった挙動をとることが知られている。動物実験で造血組織を中心に障害を生ずることが明らかにされヒトが長期間摂取した重大事故も発生している。

原子力百科事典（ネット版）より
（一般財団法人 高度情報科学技術研究機構が運営）

いらぬもの「放射能」
ほしいもの「安心」



* 核融合科学研究所はトリチウム除去装置を設置するとしていますが、これまでに具体的な説明はありませんでした。

「原子炉閉鎖で乳児死亡率激減」

最大で 54.1% マイナス

▼米研究機関が発表▼

【ワシントン26日大軒護】放射線の健康に与える影響を調査している米研究機関は26日、原子炉の閉鎖により周辺に住む乳児の死亡率が激減したとの調査結果を発表した。

調査は免疫学や環境問題などを専門とする医師、大学教授などで組織する「レイディエイション・パブリック・ヘルス・プロジェクト」(RPHP)が、1987年から97年までに原子炉を閉鎖した全米7ヶ所の原子力発電所を対象に、半径80キロ以内の居住の生後1歳までの乳児死亡率を調べた。

調査は、原子炉閉鎖前の死亡率と、閉鎖2年後の死亡率を比較しているが、それによると、87年に閉鎖したワイオミング州のラクロッセ発電所では、15.3%の死亡率減少だった。もっとも減少率の大きかったのが、97年に閉鎖したミシガン州ビッグロック・ポイント発電所周辺で54.1%の減少だった。減少は、がん、白血病、異常出産など、放射線被害とみられる原因が取り除かれたことによるものとしている。RPHPによると、85年から96年までの全米幼児の死亡率は、平均で6.4%減にとどまっており、「原子炉の影響が実証された」としている。

米国では2003年までに28基の原子炉が、米原子力規制委員会(NRC)へ免許更新申請する時期にきているというが、RPHPによると更新にあたっては周辺の環境問題は考慮されておらず、今後、この問題でNRCへの強い働きかけが必要としている。

2000年4月27日東京新聞より